

SBSTTA14 第二作業部会に対する共同声明

ポスト 2010 年ミッション・戦略目標・ターゲットの提案について

(議題番号 UNEP/CBD/SBSTTA/14/10)

2010 年 5 月 17 日 ケニヤ ナイロビにて

(発表者 バードライフインターナショナル Muhtari Aminu-Kano)

賛同団体

1. バードライフインターナショナル
2. ボタニックガーデン コンサベーションインターナショナル (BGCI)
3. コンサベーションインターナショナル
4. エコネクサス
5. エコロッパ
6. フォレストピープルプログラム
7. フォンダシオン ビダ シルベストル アルゼンチン
8. グローバル フォーレスト連合
9. グローバル インベージブ スピーシズ プログラム
10. グリーンピース
11. 生物多様性条約市民ネットワーク (約 80 の参加団体)
12. カルパヴリクシュ
13. プラントライフインターナショナル
14. ガイア財団
15. ティンバーウォッチ連合 (南アフリカ)
16. トラフィック
17. VAS-グリーン エンバイロメント ソサエティ (イタリアの 50 団体が加盟する連盟)
18. ウェットランドインターナショナル
19. WWF

CBD 締約国各位

GBO 3 が明白に指摘したように、いくつかの地域で進歩が見られるものの CBD 締約国は 2010 年目標の達成に失敗しました。

生物多様性は警戒を要するスピードで失われ続けており、生態系機能とサービスは深刻な

損失を続けており、自然資源がもたらす便益にしてもその損失のコストにしても公平に分配されている状態にはありません。

私たちの失敗の理由は生物多様性損失の根本的原因に取り組んでこなかったことにあります。現在の経済システムや統治システム及び政策は、いくつかの国と社会集団で自然資源の過剰利用を促進するものとなっており、この過剰利用が生息地破壊を推し進め、自然資源に頼って生きている何百万の人々の権利と生計を今も侵害しているのです。

かなりの量の生産と消費を伴う人口の増加を支えている地球のキャパシティには限りがあります。地球上の命の持続性がかなり蝕まれつつあります。

我々はターニングポイントにいます。根本的変化が早急に必要となっています。社会は社会経済政策と環境政策を結びつける新たなビジョンを必要としています。

いいニュースは、私たちはまだそれが出来るということです。実際にある成功から学び、将来のための賢くかつ公平なアプローチを作り出すことが出来るのです。

CBD 締約国は今、これを先導することを問われているのです。

しかしながら、環境セクターだけでこれは達成できません。金融や貿易、気候変動とエネルギー、自然災害削減、健康、農業、林業、漁業といった問題に責任のある、あらゆる関連セクターが、国レベルと国際レベルの両方で動くことが必要なのです。

これらセクターも得るものが多くあります。生物多様性と機能している生態系が、セクターが掲げている目標達成を支え、世界経済全体を下支えしている様々なサービスを提供しているからです。

関連するセクターにとっての生物多様性の価値と便益、及び生物多様性損失から発生するコストについて、政府がしっかり認識することは国益にかなうものです。

セクターがそのポートフォリオに生物多様性を組み込んでいる例もいくつかあるものの、より大きいスケールでこの組み込みが確かなにされるためには、政治的リーダーシップが必要です。

政府は最も高レベルで動かなければなりません。国家元首はあらゆるセクターの資源とアクションを動員することを確約しなければなりません。

現行の CBD 戦略計画案はこの挑戦に十分向き合っていない。

私たち NGO は CBD 事務局の作業を歓迎しますが、現在提案されている全体的ミッションは十分野心的とはいえません。生物多様性の損失は 2020 年までに停止しなければならないのです。

提案されているターゲットの多くを達成すれば、生物多様性損失に大きく貢献すると思いますが、私たちが直面している広範囲な挑戦に向き合うには、かなり言い直しが必要です。

したがって私たち NGO は以下の提案をします。

1 ミッションの文章変更

「2020 年までに生物多様性の損失が止まり、生態系が復元され、生物多様性と生態系の価値と便益が公平に分配され、開発のすべての側面に完全に統合されている。そして全締約国がそうするための手段を備えている。」

2 以下の事項が適切に取り組みられるようにするためのターゲット文章の変更

- 国家元首が主導するセクター横断型の内閣委員会の創設により、生物多様性を関係するポートフォリオに組み込むという、最も高レベルの政府の取り組み
- 社会全体の健康と便益のために、生物多様性のプロセスと便益と価値を、経済政策設計及び国家勘定に統合するための具体的ステップやメカニズム及び工程表を明確にすること。それは統治の問題と生物多様性の社会的文化的次元にも完全な配慮を伴うものである。
- 効果的な土地利用計画や管理、持続的利用と先住民及び地域コミュニティの権利を完全に尊重したよい統治により、あらゆるタイプの生態系を通じ、生息地損失を早急に防止すること。
- CBD の目的を関連する多国間協定に組み込むこと。特に UNFCCC における適応と緩和についての決定は、生態系に基づいたアプローチを包含したものでなければならない。このアプローチは生物多様性を維持かつ／あるいは高め、生計に貢献し、先住民と地域コミュニティの権利を認識かつ尊重し、公平かつ透明性のあるやり方で適切な資源を動員するものである。

我々 NGO は CBD 締約国に対し、名古屋での COP10 の前に、上記 4 つの争点を推進してすることを国の公約として発表することを強く求めます。

私たちは交差点に立っています。GBO が警告したように、「迅速で急進的で創造的なアクション」なしには、地球上のいのちの損失スピードを更に速めてしまうことになります。この宣言に参加している組織は締約国と事務局に対し、この機会に上記の事項を現実のものとするための具体的行動を取ることを強く要望します。我々NGOは、地球を真に持続的な道に戻すために、国連生物多様性10年となるであろう期間中、協力していくことを切望しています。